

写真1　標本木

近隣史跡の紹介

九段にある靖国神社は、明治2年に明治天皇の思いにより創建された東京招魂社が、明治12年に改称された神社です。

靖国神社は、東京都内でも有数の桜の名所でもあります。その始まりは、明治3年に国内初の洋式競馬場が靖国神社内につくられた（明治31年廃止）際、木戸孝允（桂小五郎）公により、参道沿いに数十本の桜が植えられたと伝えられています。

現在は、大鳥居を抜けた参道と境内では、ソメイヨシノを始めとして寒桜や八重桜など約600本の桜を観賞できます。その内の3本のソメイヨシノは、気象庁が東京地方の毎年の桜開花を告げる標本木（写真1）となっています。

4月には、満開の桜に合わせた桜まつりが開催されます。明治時代から有名な夜桜（写真2）も美しく、奉納夜桜能、奉納大相撲、春季例大祭の祭事も行われ、参拝者と花見の人々でにぎわいます。

参考文献
靖国神社資料
九段商店街振興組合資料



写真2　拝殿と夜桜

